

# 防災・減災のための「やさしい日本語」 —チラシの作成タスクの分析から—

轟 木 靖 子  
山 下 直 子

## 1 はじめに

近年、南海トラフ地震をはじめ、大規模な地震や津波を想定した防災訓練や啓発活動が各地でおこなわれるようになった。地震だけでなく台風や大雨による自然災害が甚大な被害をもたらすことも多く、どこに住んでいても地域の防災・減災は重要な課題になってきている。同じような大きな地震が起こったときでも、沿岸部で津波の被害が起こりやすい地域と古い住宅街で建物の崩壊が起こりやすい地域では取るべき対策が異なっており、地域を単位とした防災・減災のための取り組みは重要であると考えられる。

法務省の統計によると、現在日本で生活している外国人住民の数は令和元年（2019年）6月末現在282万人余りで過去最高となっている。日本の総人口約1億2600万人（総務省統計局2019年9月1日概算値）の2パーセントを超える状況となっており、今後も増え続けることが予想される。

2020年の東京オリンピックを控え、日本に滞在する外国人が大幅に増えることが予想される中、消防庁は施設で災害が起こったときの避難誘導等を想定した「外国人来訪者や障害者等が利用する施設における災害情報の伝達及び避難誘導に関するガイドライン」を作成した。

地域の防災を考える際、傷病人や独居老人、子ども等いわゆる「自力避難困難者」を各自治体で把握しておくことの必要性が知られている。本来この中に、日本語がじゅうぶんでない外国人住民も含めることが望ましいが、これは企業の大規模な工場があるような集住地域以外には意識が向けられにくいのが現状である。

1995年の阪神・淡路大震災では、避難や防災に関する指示が理解できなかった多くの外国人が危険を避けることができず、さらに被害を深刻なものにしていると言われている。それまでも個々に様々な取り組みは行われてきたが、この震災が契機となり、通訳ではなく、「母語を問わず伝えることのできる」方法として「やさしい日本語」による災害時の情報伝達を体系的に整理する取り組みが本格的におこなわれるようになった。

「やさしい日本語」は日本語教師や防災の専門家だけではなく、誰でも使えるようになることが地域の防災・減災では必要である。ただ、実際のところ一般的にはあまり知られていない。本研究では、大学生におこなったタスクの分析から、日本語母語話者が「やさしい日本語」を使う場合に困難となる点について分析・考察をおこない、今後「やさしい日本語」の教育・普及に取り組むうえで重要となるポイントや注意すべき点について明らかにする。

## 2 「やさしい日本語」について

災害時のやさしい日本語については弘前大学の佐藤和之氏が同大学のホームページで詳細を公開している（注1）。外国人にできるだけわかりやすく、ということはおそらくわかっていても、実際に文をどのようになおすのがわかりやすさにつながるか、という点については普段から外国人に関わることの多い日本語教師等やボランティア以外には知られていないことが多い。佐藤（2016）では、災害時の情報伝達を「やさしい日

本語」でおこなうことの重要性について述べられており、通常のニュースと「やさしい日本語」を使ったニュースの違いが以下の例で示されている (p.47)。

実際のラジオ放送の一部

【普通の日本語】

けさ7時21分頃、東北地方を中心に広い範囲で強い地震がありました。  
大きな地震のあとには必ず余震があります。  
引き続き厳重に注意してください。

【やさしい日本語】に直したもの

今日 朝 7時21分、東北地方で 大きい 地震が ありました。  
大きい 地震の あとには 余震 あとから くる 地震が あります。  
気をつけて ください。

「やさしい日本語」では、平易な言葉を使い、また漢字を使いながら分かち書きをしている点も特徴的である。単にやさしい言葉に置き換えるだけでなく、「余震」のような災害時の情報伝達でよく用いられる語はあえて残し、「あとからくる地震」のように説明を加えることを繰り返すことにより、外国人住民に覚えてもらうという点も通常の日本語教育とは異なる点である。いっぽうで、カタカナ、外来語、ローマ字、擬音語、擬態語を使わない、漢字の使用量に注意しルビをふる、あいまい表現や二重否定の表現を避ける等、日本語教育の現場でおこなわれていることと共通する点も多い(注2)。

ただ、地域を単位とした防災・減災を考える場合、外国人住民への情報伝達や災害時のケアを日本語の専門家やボランティアだけに頼るのは無理がある。国籍や母語を問わず、普段から地域住民同士の関係を成り立たせつつ、必要に応じて誰もが「やさしい日本語」を使えるようになることが望ましい。今回はその一歩として、実際にチラシを「やさしい日本語」を使って提示するタスクをとおして、日本語母語話者が「やさしい日本語」で災害時の情報伝達をする場合の注意点について考察をおこなった。

### 3 調査の概要：「やさしい日本語」を使ったチラシ作成タスクについて

#### 3.1 防災チラシについて

本研究では、香川県危機管理課が2018年に作成し各家庭に配布した「実践しよう！命を守るために家庭のできる防災対策（保存版）」の中から、見開き2ページ目の家具の転倒防止・窓ガラスの飛散防止に関する記述部分を使用し、「やさしい日本語」を使って外国人住民向けのチラシを作成するタスクに使用した。カラーで絵を使い、比較的わかりやすく説明がされているが、家具の固定も含め、地震が起こってからではなく日頃の備えとして対策をする、という考え方は外国人住民にはあまり知られていないこと、また紙面の情報量のバランスにやや工夫が必要な点があり、今回の災害時の情報伝達を想定した調査に使用することとした。

#### 3.2 調査の方法

調査は2020年1月16日、17日におこなった。被調査者となったのは、香川大学の学生15名で、男性3名、女性12名である。最低でも1回は「やさしい日本語」に関連する講義を受けたことがあり、防災では

ないが日本語指導の必要な児童・生徒を対象とした教材のリライトをしたことのある学生も含まれる。

フェイスシートには氏名を記入してもらい、防災以外の目的も含め「やさしい日本語」について「知っているし使ったことがある」「聞いたことはあるがあまり馴染みがない」「はじめて聞いた」の中から一つ選んで答えてもらった。「知っているし使ったことがある」回答者には、制作物の経験がある場合や留学生のチューター等で話すときに工夫する等の経験がある場合はその内容について自由記述で答えてもらった。

そのうえで弘前大学社会言語学研究室HP「減災のための『やさしい日本語』」から抜粋した「やさしい日本語」の説明および「やさしい日本語にするための12の規則」を印刷して配布し、簡単に口頭で説明をした。主として漢字仮名交じり文で分かち書きをすること、漢字は小学校2～3年生程度を念頭におくこと、対象となるのは大人も子供も含まれ、簡単な日常会話であればできるくらいの日本語能力(N3程度)であることを伝えた。また、配布した資料から、情報を全部伝えるわけではなく、厳選して重要なものに絞ることが重要であることを説明した。絵については自分で手書きしても、またコピーを切り取って貼ってもかまわないと指示をした。時間は10分程度の予定であったが、最終的に全員回収するまでには15分くらいかかった。

### 3.3 素材のチラシの内容について

もともとのチラシは見開き4ページで、内容は以下の構成となる。

- 1 ページ：倒壊した家屋の写真と家屋の耐震化対策の有無による被害の差のグラフ
- 2 ページ：耐震診断の補助に関する情報、家具の転倒防止およびガラスの飛散対策の方法（本調査で使用）
- 3 ページ：防災に関する情報ソースの紹介、地震が起きたときの行動
- 4 ページ：災害時のための備蓄品

調査に使用した部分を図1に示す。

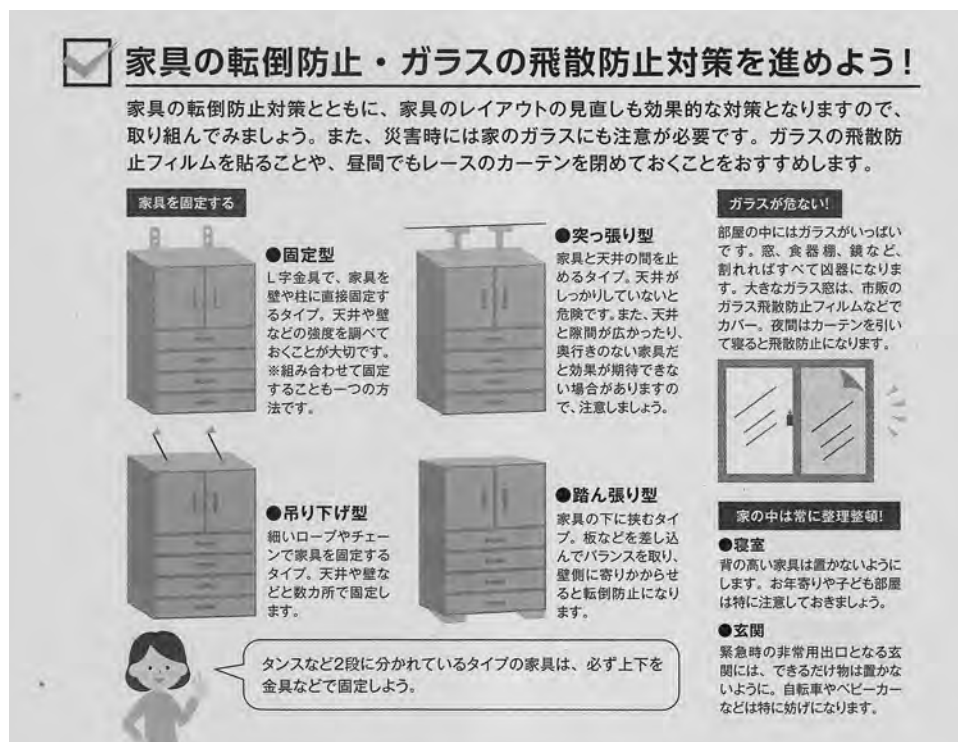


図1

この内容は（１）家具の固定（２）ガラスの危険性（３）家の中の普段からの整頓の必要性の三つから成るが、（１）の家具の固定についての図解が非常に多く、４種類の金具について詳しく説明されている。情報としては（２）窓ガラスが割れたときの危険、（３）普段から家の中を片付けておくことが避難経路を確保することにつながるという２点も同様に重要であるが、紙面に占める割合は小さい。

今回の調査では、日本語の表現をやさしく適切に変えることができるか、という点と、上記（１）（２）（３）の情報をいかにバランスよく提示できるかにポイントを置いて分析をおこなった。

## 4 調査結果

### 4.1 見出しについて

もとのチラシは「家具の転倒防止・ガラスの飛散防止対策を進めよう！」とあるが、「やさしい日本語」であれば、「家具」「ガラス」や「転倒」「飛散」「防止」のような語をできるだけ具体的なもので示したり、動詞を使った言い方になおす等の工夫が必要がある。表１に、「家具」「ガラス」「転倒」「飛散」「防止」の語の言い換え状況を示す。

表１ 語彙の言い換え状況

(相当する表現がなかった部分は「-」で示す)

回答者	語	家具	ガラス	転倒	飛散
F01*		家具	ガラス	たおれる	飛ぶ
F02*		家具	ガラス	倒れる	割れる、飛び散る
F03*		家具	ガラス	倒れる	割れる
F04		家具	ガラス	たおれる	割れる
F05		家具	窓	-	割れる、散る
F06		家具	ガラス	倒れる	散る
F07		家具	窓	動く	割れる
F08		家具	ガラス	-	飛散防止フィルム
F09		家具	ガラス	たおれる	とぶ
F10		棚	窓	倒れる	割れる
F11		たんすやたな	まど	たおれる	われる
F12*		家具	ガラス	倒れる	割れる
M01		家具	ガラス	倒れる	割れる
M02*		たんすや たな	ガラス	-	-
M03		家具	ガラス	倒れる	割れる

Fは女性、Mは男性を示す。

\*は「やさしい日本語」について「聞いたことはあるがあまり馴染みがない」と答えた回答者である。

「家具」については15名のうち12名がそのまま使用していた。残る3名は「棚」「たんすや たな」のように置き換えている。これについては、どの回答者も図を用いていたこと、「家具」と「たんす」ではどちらもあまり知られていない可能性が高いことから、言い換えが必須であるとは言いにくい。ただし社会人であれば「棚(たな)」は多少知っている可能性も高いと思われる。「ガラス」については15名のうち「窓」に言い換えたのは4名であった。この4名は、後述の家具の固定に関するあらわし方や日本語の表現においても比較的良好な工夫がみられた回答者であった。



「転倒」「飛散」についてはほとんどの回答者が「倒れる」「割れる」「飛ぶ」のような動詞に置き換えた表現をしていた。一部これらに相当する部分を書かなかった者、また「飛散防止フィルム」という形で書いた者もいた。漢語表現を動詞であらわす、という点については今回の調査では比較的対応しやすかったことが伺える。

#### 4.2 家具の固定について

家具の固定については、もとのチラシでは、「固定型」「突っ張り棒型」「吊り下げ型」「踏ん張り型」の4種類の固定金具の説明が図を使って説明してある。これは、家具の固定について理解をしている場合は、この中のどれか一つ使いやすi者を選べばよいということがわかるが、多くの外国人住民は家具の固定については知らない場合が多く（轟木・高橋・山下（2018））、四つを提示されることでこのすべてをしなければならないと思ってしまう可能性もある。金具を購入して固定する作業は一つだけでも労力が要るが、4段階必要、と思ってしまうことでさらにハードルが上がってしまうおそれもある。

災害時の情報伝達では、すばやく情報に優先順位をつけて必要なものに絞って「やさしい日本語」で伝えることが重要である。このチラシについては、家具の固定を説明することは必要であるが、4種類の金具の区別の優先度はそれほど高くない。今回の調査では、この4種類ある金具をいかに簡単に示すことができるかに注目して分析をおこなったが、15名中13名が4種類をそのまま残すという結果になった。残る2名のうち1名は絵を2種類残したものの、説明は「家具を 動かないように する」「壁や 天井に器具を つける」とし、金具の部分は○で囲んで示すだけにとどめていた。もう1名はたんすのそばで寝ている絵を使い、固定している場合と固定していない場合の違いを示した。「地震が あると 棚が 倒れます」「棚を 固定してください」という説明にとどめていた。この2名は授業でリライト教材を作った経験があるが、残る13名のうちの6名も同様の経験があることから、情報の精選は経験者であっても難しい課題であると考えられる。

#### 4.3 窓ガラスの飛散防止について

もとのチラシでは、「部屋の中にはガラスがいっぱいです。窓、食器棚、鏡など割れればすべて凶器になります。大きなガラス窓は、市販のガラス飛散防止フィルムなどでカバー。夜間はカーテンを引いて寝ると飛散防止になります」と書かれている。

割れるとあぶないものは、窓だけでなく食器、鏡などがあるが、多くの部屋にあり、分量が多いことを考えるととくに窓の危険性を伝える必要がある。普段からできることとしてはカーテンを閉めることが室内へのガラスの散乱を防ぐことにつながる。

窓のガラスの危険性や飛散防止対策について、家具の固定とは別に図解で示して説明したのは15名中6名であったが、この中には上記4.1の語彙の言いかえで「ガラス」を「窓／まど」に置き換えた4名が全員含まれている。わかりやすい提示方法の工夫と情報の重要性を見極めは今回の調査では、ある程度連動しているようすが観察された。

#### 4.4 寝室と玄関の整頓について

もとのチラシでは、寝室と玄関のそれぞれについて余計なものを置かないよう注意をうながしている。

寝室 背の高い家具は置かないようにします。お年寄りや子ども部屋は特に注意しておきましょう。

玄関 緊急時の非常用出口となる玄関には、できるだけ物は置かないように。自転車やベビーカーなどは特に妨げになります。

緊急時の避難出口をふさいでしまう危険性、また就寝時の危険性という点から考えると、この二つは非常に重要である。ただ、もとのチラシではこの部分の説明は図もなく、紙面でも全体の約10分の1程度の分量であり、一見したところあまり印象に残らない。

ここの部分を「やさしい日本語」で説明しようとしても、どうしても「(大きな)物」「家具/たんす/たな」のような言い方が残る可能性が高く、絵を使って説明する必要があると思われる。今回の調査で、玄関に関する注意について絵を用いたのは1名であり、「高さのある家具は置かないでください」「はやく外に出られるように物は置かないでください」「特に自転車やベビーカーはあぶないです」のように、「物」「家具」のような抽象的な名詞を使ってはいるものの「自転車」「ベビーカー」を図と言葉で示すことによってよりわかりやすく提示している。この回答者はこれまでほとんど「やさしい日本語」を使った経験がない。しかし今回の調査で「やさしい日本語」の説明やルールを知ったことで、情報の重要度の判断も含めて、ある程度「やさしい日本語」を活用することがスムーズにできた例ではないかと思われる。

#### 4.5 語彙や漢字について

文を短く、構造を単純にする点については、各々で工夫がみられた。すべて単文だけにすることは難しいようであるが、情報量が多く構造が複雑な文が多かった素材を整理してわかりやすく示す点では回答者による差はあったものの、大体においてある程度工夫がされていた。漢字についても、易しい漢字を使い、ルビをふることは守られていた。分かち書きについても、ほとんどの回答者が対応することができていた。

## 5 考察

今回の調査に協力した15名のうち、9名は授業でリライト教材を作成した経験のある学生であった。リライト教材とは、主として日本の学校へ通う日本語指導の必要な児童生徒を対象に、教科書や関連する教材をわかりやすい言葉で書きなおしたものである。日本文化や日本の学校生活で常識となっていることを前提にした部分がハードルとなりやすく、防災のための「やさしい日本語」とは異なった配慮が必要となるものの、平易な語彙を使用すること、単純な構造の文を用いること、必要な情報にしばること等、共通点も多い。

今回の調査は、家具の固定金具と同様に窓ガラスの飛散対策や玄関・寝室の整理整頓についても重要であることを示すことができるかをみることで情報の精選について分析をおこなったが、窓ガラスについては6名が絵を用いており、そのうち5名はリライト教材作成経験者であった。残りの1名はリライト教材の作成経験はなかったが、複数の授業で「やさしい日本語」を使った活動経験があった。いっぽうで、玄関や寝室についてはほとんどの回答者が言葉で説明するにとどまり、「物を置かない」のような抽象語彙をのこした表現したり、あるいはこの項目自体を省略してしまう者も3名いた。「やさしい日本語」の使用を経験することで、情報の精選についてはある程度上達すると思われるが、あらかじめ提示された複数の情報の比重を変えて優先度を判断し、提示するのは難しいと考えられる。

そのいっぽうで、玄関に物を置かないことについても絵で示した唯一の回答者はリライト教材の作成経

験はなく、一度だけ授業で過去に聞いたことがあるという学生であった。この回答者は、家具の金具の固定については四つとも書いていたが、「ホームセンターで買えます」のように、具体的な入手方法を示すような工夫がされていた。

漢字の使用やルビ、分かち書き等は、実例を示すことで比較的クリアしやすい部分であると思われる。また、「転倒」→「倒れる」「飛散」→「割れる」のような動詞への言い換えは今回の調査ではほとんどの回答者が問題なくできた。いっぽうで経験者でも難しかったのが「家具」「物」のような上位概念や抽象概念をあらわす語を使わないようにすることと、もとの文章の情報量の偏りに左右されずに重要な情報を精選することであった。

日本語教師やボランティアの経験のない日本語母語話者が「やさしい日本語」を使えるようにするためには、平易な語彙や単純な構造の文のような日本語の語彙や文法の知識に基づく内容だけでなく、一定の長さの文から重要な部分を読み取る読解力や情報分析力が必要であると考えられる。それは「やさしい日本語」を使用する経験を重ねることである程度培うことができると考えられるが、経験がなくても「どうやったらわかりやすいか」を考えることでカバーできる部分もある。今後災害時の情報伝達で「やさしい日本語」を広く活用するためには、日本語表現の工夫だけでなく、情報の精選についてのスキルを磨くことができるようにする必要がある。

今回は個々の回答データを細かくみることができなかった。今後さらに詳しく分析をおこない、文の構造の単純化や使用語彙の傾向等についても考察をおこないたい。

## 謝辞

調査に協力してくださった皆様に感謝いたします。

## 付記

本研究はH27-H32（R2）年度 科学研究費による研究 基盤研究（C）地域防災・減災のための「やさしい日本語」の普及と教育に関する研究（課題番号17K2613）（研究代表者 轟木靖子）の研究成果の一部です。

注1 2020年1月17日に閉鎖された。

注2 弘前大学人文学部社会言語学研究室ホームページで提示されていた「『やさしい日本語』にするための12の規則」による。佐藤（2016）に掲載あり。

## 引用文献

佐藤和之（2016）「緊急情報は『やさしい日本語』で」『防災ガイド』（月刊 事業構想6月号別冊）事業構想大学大学院出版部、46-49.

轟木靖子・高橋志野・山下直子（2018）「日本人学生と留学生の防災に対する意識について—アンケート調査の分析—」『香川大学生涯学習教育研究センター研究報告』第23号、75-82.

## 参考URL

消防庁（2019）「外国人来訪者や障害者等が利用する施設における災害情報の伝達及び避難誘導に関するガイドラインリーフレット」（<https://fdma.go.jp/mission/prevention/post-3.html>）（最終閲覧2020年2月1日）

総務省統計局「人口推計」(<https://www.stat.go.jp> (201909.pdf)) (最終閲覧2020年2月1日)

弘前大学人文学部社会言語学研究室「減災のための『やさしい日本語』」(<http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/EJ1a.htm>) (最終閲覧2020年1月14日)

法務省「令和元年6月末における在留外国人数について(速報値)」

([http://www.moi.go.jp/nyuukokukanri/kouhou/nyuukokukanri04\\_00083.html](http://www.moi.go.jp/nyuukokukanri/kouhou/nyuukokukanri04_00083.html)) (最終閲覧2020年2月1日)



資料：アンケート用紙および資料

「やさしい日本語」にチャレンジ

「やさしい日本語」とは、普通の日本語よりも簡単で、外国人もわかりやすい日本語のことです。これは、地震などの災害が起こったときに有効なことばです。

1995年1月の阪神・淡路大震災では、日本人だけでなく日本にいた多くの外国人も被害を受けました。その中には、日本語も英語も十分に理解できず必要な情報を受け取ることができない人もいました。

そこで彼らが災害発生時に適切な行動をとれるようになり考え出されたのが「やさしい日本語」です。

弘前大学社会言語学研究室HP 減災のための「やさしい日本語」より  
(<http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/EJ1a.htm>)

氏名 ( )

「やさしい日本語」(防災以外の用途も含む)について、一つ選んで○をつけてください。

( ) 知っているし、使ったことがある  
制作者の経験のある人はそれについて書いてください(例:授業で、リライト教材  
→

( ) 聞いたことはあるが、あまり馴染みがない  
( ) はじめて聞いた

別紙の防災チラシを「やさしい日本語」を使ってわかりやすく作成しなおしてみよう。対象は大人も子どもも含みます。日本語能力はN3合格程度、簡単な日常会話なら出来る人を想定してください。

文章だけでなく、絵を加えることも可能です。必要に応じてチラシの絵を切り取り貼り付けてもかまいません。

完成したら、この紙といっしょにホチキスで綴じて提出してください。

この調査は、H29-H32(R2)年度科学研究費助成事業基盤研究(C)「地域防災・減災のための『やさしい日本語』の普及と教育に関する研究」(課題番号17K2613 研究代表者 轟木靖子)のために実施するものです。この調査で得た情報については研究目的でのみ使用し、個人が特定されない形で処理します。授業の成績や評価には影響しません。

「やさしい日本語」にするための12の規則

- (1) 難しいことばを避け、簡単な語を使ってください
- (2) 1文を短くして文の構造を簡単にします。文は分かち書きにすることばのまとまりを認識しやすくしてください
- (3) 災害時によく使われることば、知っておいた方がよいと思われることばはそのまま使ってください
- (4) カタカナ外来語はなるべく使わないでください
- (5) ローマ字は使わないでください
- (6) 擬態語や擬音語は使わないでください
- (7) 使用する漢字や、漢字の使用量に注意してください。すべての漢字にルビ(ふりがな)を振ってください
- (8) 時間や年月日を外国人にも伝わる表記にしてください
- (9) 動詞を名詞化したものはわかりにくいので、できるだけ動詞文にしてください
- (10) あいまいな表現は避けてください
- (11) 二重否定の表現は避けてください
- (12) 文末表現はなるべく統一するようにしてください

実際のラジオ放送の一部

【普通の日本語】

けさ7時21分頃、東北地方を中心にご広い範囲で強い地震がありました。大きな地震のあとには必ず余震があります。引き続き嚴重に注意してください。

【やさしい日本語】に直したもの

今日 朝 7時21分、東北地方で 大きい 地震が あります。 大きい 地震の あとには 余震 あとから くる 地震が あります。 気をつけて ください。

佐藤和之(2016)「緊急情報は『やさしい日本語』で」『防災ガイド』(月刊 事業構想 6月号別冊) 事業構想大学院院出版部、46-49.